

**令和2年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会
大腸がん部会 概要**

- 1 日時：令和3年1月13日(水) 14:00～15:30
 2 場所：岐阜県シンクタンク庁舎 1-1会議室
 3 出席者：

	氏名	所属
委員	荒木 寛司	松波総合病院 光学診療センター長
	足立 政治	岐北厚生病院 消化器内科部長
	三輪 佳行	岐阜県医師会 常務理事
	窪田 裕子	岐阜市民病院 中央検査部
	井川 幸子	市町村保健活動推進協議会保健師部会 (大垣市)
オブザーバー	伊藤 陽一郎	関保健所 所長 【欠席】
事務局	赤尾 典子	保健医療課長兼健康推進室長
	森 稚加子	主幹兼がん対策係長
	中島 早映	技術主査
	上口 大輝	主事

4 内容：

報告：1 令和元年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会大腸がん部会議事

2 岐阜県のがんの現状等

- ・岐阜県の75歳未満年齢調整死亡率は長期的には減少傾向にあるが、大腸がんの年齢調整死亡率には男女差及び地域差が見られる。死亡率が高い要因についてはより詳しく男女のデータ等を分析していく必要がある。

3 がんの予防（大腸がん検診）の推進について

(1) 正しいがん検診の実施

- ・当面は新型コロナウイルス等の感染対策を行いながら検診を実施していく必要があり、いかに受診率を減らさずに必要な検診を受けていただくかの方策を考えていかなければならない。
- ・検体の取り扱いに注意を要することから、郵送回収は推奨せず、指針に基づく検診の実施を推進していく。

(2) がん検診マネジメント

- ・技術・体制指標及びプロセス指標は、全体的として改善傾向にある。今後は市町村と検診機関との連携強化を図り、さらなる精度向上を目指していく。

- ・プロセス指標の未把握率が高い地域において、実態を把握し要因を分析していく必要がある。住民や地域の医療機関（医師）に対して広くがん検診の意義を啓発し、要精検者には確実に精密検査を受診してもらう体制を整備すべき。
- ・検診機関毎の要精検率は、目視判定の施設において高い傾向が続いている。各施設において、要精検率が許容値を満たせるよう改善に向けた取り組みを進めて欲しい。

（３）がん検診の受診率向上対策

- ・国民生活基礎調査の結果から、がん検診受診率の向上を認め、特に職域等での受診者数が急激に増えていると考えられる。職域のデータを把握し、具体的な対策を講じていくことが望ましい。

⇒上記協議結果について、市町村及び検診機関への通知を行い、フィードバックする。